

消化器内科の紹介



消化器内科

主任部長 北村 和哉

Kitamura Kazuya

関係各位の皆さま、平素より大変お世話になっております。市立砺波総合病院消化器内科について紹介させていただきます。

現在、消化器内科は、河合博志院長の指導のもと、北村和哉、岡村利之、高田佳子、田丸雄大、竹内勇太の常勤5名で診療にあたっています。

当科の特徴

2007年より地域がん診療連携拠点病院、2008年より肝炎診療連携拠点病院として、富山県西部の消化器癌や肝炎治療の中心的な役割を担っています。また、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設として若手消化器内科医の教育・研修にも力を入れています。

診療内容

消化器内科では、食道、胃、小腸、大腸などの消化管や、肝臓、胆道、膵臓など消化吸収に関連する臓器に生じる疾患を診療対象としており、対象疾患も多岐にわたっています。具体的には、肝炎に対する抗ウイルス療法、食道癌、胃癌、小腸癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌など、各種消化器癌に対する化学療

法や放射線療法、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患に対する薬物療法、消化管出血に対する内視鏡的止血、早期胃癌や大腸ポリープに対する内視鏡的切除、胆道や膵管の内視鏡的ドレナージ・ステント留置や結石除去などを行っています。最近では、超音波内視鏡（EUS）を用いた胆膵疾患の精密検査や、超音波内視鏡下穿刺細胞診（EUS-FNA）による膵癌などの病理診断、膵仮性嚢胞ドレナージなどのEUSを用いた内視鏡治療も積極的に行っています。さらにシングルバルーン小腸内視鏡やカプセル内視鏡による小腸疾患の検査も行っています。砺波医療圏の中核病院として、消化器疾患の検査から治療までを当院で完結できるよう、日々診療にあたっています。日常診療でお困りのことがございましたら、当科へご紹介、ご相談いただけますと幸いです。

以上、簡単ではございますが当科の紹介とさせていただきます。皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



左から順に岡村医師、高田医師、北村医師、田丸医師、竹内医師

救急部、集中治療・災害医療部の紹介

関係各位の皆様、平素より大変お世話になっております。市立砺波総合病院救急部、集中治療・災害医療部についてご紹介をさせていただきます。当院では、救急部医師2名、集中治療・災害医療部医師4名が各専門科の医師や多職種のスタッフと連携し診療を行っております。

砺波医療圏救急医療のゴールキーパーとなる救急部であるために

砺波医療圏（砺波市、南砺市、小矢部市）の地域救命センターとして救急医療（2.5次救急）を行っております。24時間365日体制で救急搬送、転院搬送を含め、一刻一秒を争う重症傷病者の救命率向上に努めております。平成27年8月から富山県ドクターヘリの運航が開始され、当院はドクターヘリ受け入れ先病院として年間約50症例の患者さんを受け入れ対応しております。また近年では、令和2年4月より南砺市民病院でドクターカーの運用が開始され、受け入れ先病院として消防機関を含めた砺波医療圏救急医療機関と連携し対応しております。

みなさまに愛される集中治療部であるために

ICU（集中治療室）4床、HCU（ハイケアユニット）12床のベッドを持ち、救急疾患や重症患者に対し、全身管理・集学的治療を行っております。患者さんは、心肺危機を伴う、あるいはその危険性の高い重症救急疾患に限られ、多発外傷などの重症外傷、脳血管障害・急性心筋梗



DMAT 先発隊 左4人目から家接医師、野崎医師

塞・急性中毒・急性腹症・各種臓器不全および心肺停止患者などです。時間外救急受付からの年間入院患者数はICU：142人、HCU：1310人（令和4年度）で、院内重症疾患患者だけでなく救急部と連携し対応しております。

災害拠点病院の役割を担う災害医療部であるために

大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team:DMAT）として、毎年全国の災害訓練に積極的に参加し、知識と技術の向上に努めております。市立砺波総合病院DMATとしては、平成28年熊本地震の発生を受け、被災地に向かい医療活動を行った他、令和6年能登半島地震においても当院DMAT、2チームが1次隊として被災地に向かい医療活動を行ってまいりました。

最後に、砺波医療圏の関係各位の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



砺波医療圏 大腿骨近位部骨折地域連携パスを始めました

関係各位の皆様には、平素より大変お世話になり、誠にありがとうございます。

現在、日本は世界でも最も高齢化が進んだ国の一つであり、その高齢の方で特に多い外傷が、転倒などにより発生する大腿骨転子部骨折や大腿骨頸部骨折です。

砺波地域においても同様の状況であり、救急医療を担う当院では、大腿骨転子部骨折、大腿骨頸部骨折の手術を年間約100件実施しており、高齢化によりさらなる増加が予想されます。

このような現状を踏まえ、関係医療機関

のご協力をいただき、2024年1月より当院が急性期病院として「砺波医療圏 大腿骨近位部骨折地域連携パス」を開始いたしました。従来の一病院完結型の医療ではなく、急性期に急性期病院で入院・手術を行った後、回復期に回復期リハビリテーション病棟等を保有する病院へ転院し集中してリハビリを行い、早期に在宅復帰を目指した治療計画を示したものです。

この計画に沿って患者さんが、必要かつ十分な医療を受けられるよう、地域全体で取り組むことを目的としています。

二次性骨折予防継続管理料の施設基準届出のお願い

2022年4月の診療報酬改定において、大腿骨近位部骨折の手術を行った患者さんに対し、二次性骨折予防に対する評価として「二次性骨折予防継続管理料」が新設されました。このことは、骨粗鬆症治療による二次性骨折予防を地域全体で役割分担をしながら継続することが求められています。

当院で大腿骨近位部骨折の手術を行った患者さんは、骨粗鬆症の評価の実施・薬物治療等を実施し、「二次性骨折予防継続管理料1」を算定します。回復期に当院から転院し、回復期リハビリテーション病棟

や地域包括ケア病棟などで「二次性骨折予防継続管理料2」を入院中に1回算定することができます。回復期の病院を退院後、クリニックや病院外来では、継続して骨粗鬆症に関する評価・薬物治療を行うことで「二次性骨折予防継続管理料3」を算定することができます。急性期から回復期、在宅と継続的に評価・治療をすすめるために、二次性骨折予防継続管理料算定要件と施設基準を参考に届出を申請していただき、二次性骨折予防管理の病診連携にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【算定要件】

- ・「FLSクリニカルスタンダード」及び「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」に沿った適切な評価及び治療効果等の判定等、必要な治療を継続して実施した場合に算定する。
- ・診療にあたっては、骨量測定、骨代謝マーカー、脊椎エックス線写真等による必要な評価を行う。

【施設基準】

- ・骨粗鬆症の診療を行う十分な体制が整備されていること。
 - ・当該体制において骨粗鬆症の診療を担当する専任の常勤医師、専任の常勤看護師及び専任の常勤薬剤師が適切に配置されていること。
- ※調剤薬局との連携でも可

大腿骨近位部骨折二次性骨折予防連絡票

Form titled "大腿骨近位部骨折二次性骨折予防連絡票" (Femoral Neck Fracture Secondary Fracture Prevention Contact Form). It includes fields for patient name, date of birth, and hospital name. There are checkboxes for "骨量測定" (Bone density measurement) and "骨代謝マーカー" (Bone metabolism marker). A section for "施設基準" (Facility standards) is also present, with checkboxes for "骨粗鬆症の評価の実施" (Implementation of osteoporosis evaluation) and "薬物治療の実施" (Implementation of drug therapy). The form is dated 2024/01/25.

当院で管理料を算定した患者さんの情報を共有するため、下記の連絡票を使用しています。回復期を担う病院から「かかりつけ医」へ紹介する際には「診療情報提供書」と一緒に連絡票の送付をお願いいたします。

砺波医療圏
大腿骨近位部骨折
地域連携パス

二次性骨折予防
継続管理料

急性期

手術、点滴、投薬等

市立砺波総合病院



転院

回復期

在宅に向けてリハビリの実施

- ・となみ三輪病院
- ・北陸中央病院
- ・太田病院
- ・南砺市民病院
- ・公立南砺中央病院
- ・光ヶ丘病院

退院

生活期

外来通院

クリニック
病院外来
(自宅・施設)



二次性骨折予防継続管理料1
1,000点(入院中1回)

二次性骨折予防継続管理料2
750点(入院中1回)

二次性骨折予防継続管理料3
500点(月1回・1年)

急性期一般・地域一般
特定機能病院

地域包括ケア病棟
回復期リハ病棟

クリニック
病院外来

連携医療機関のご紹介



医療法人社団 寿山会

高橋外科医院

(外科、内科、消化器科、整形外科)

たか はし のぶ と

理事長 高橋 暢人



医療や高齢者介護などお気軽にご相談ください。

当院は、昭和53年より私の父である故高橋卓朗により、現在の砺波市寿町において当初は有床診療所として地域医療に関わってまいりました。その後、医療のニーズや高齢化社会にあわせて診療所は無床化し、あらたに平成8年から老人保健施設あかり苑を併設しました。また、やや離れた砺波市堀内に平成10年から療養型病床である、あおい病院を開院し高齢者が人生の各ステージにて最適な生活環境を選択できることを目標に活動しております。さらに、同じ法人内に南砺市福光にて同様の施設として老人保健施設福光あおい(当初は療養病床として開設)を平成13年より開設し、南砺市においても地域の高齢者やそのご家族の一助となるべく取り組みを行っています。

診療所には主に腰痛や膝関節痛を訴える方が多く、少しでも生活の質を下げないよう速やかな治療やサポート、紹介を行っております。また腹部超音波、上部消化管内視鏡にての健診も行っており、消化器疾患の早期発見、治療、生活習慣改善の動機付けを行って、砺波医療圏の健康年齢の向上や生活の質の改善のサポートを行っています。グループホームも併設しており、身近でいつでも相談にのれるような親近感のある医療機関を目標にこれからも活動していきます。

砺波市寿町2-40 TEL0763-33-2727

	受付時間	月	火	水	木	金	土
午前	9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後	14:00~18:00	○	○	○	○	○	-

(土曜午後、日曜、祝日は休診) ※月に2回休診



中川整形外科クリニック

(整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科)

なかがわ かずひろ

院長 中川 一博 先生

日本整形外科学会
認定専門医



地域で頼られるクリニックを目指しています

当院は、小矢部市綾子（郵便局のとなり）に開院し、今年で16年目になります。開院前は長野県（飯山市）の赤十字病院で勤務していました。小矢部市出身ですが、砺波医療圏での勤務経験がなく、開院当初から砺波総合病院、並びに砺波医療圏の先生方には大変お世話になりました。

当院は、整形外科一般の治療はもとより、スポーツ障害、労災、交通事故の治療等、地域に密着した医療を提供できるよう日々励んでいます。特に開院当初よりリハビリテーションに力を入れており、現在は理学療法士6名が在籍しております。運動

器疾患でリハビリテーションが必要な方がおられましたら、御紹介いただければ幸いです。

今年から小矢部市では、『チョイソコおやべ』AIオンデマンド交通、小矢部市とトヨタの協賛バスが始まりました。当院も停留所としてご利用される方が増えております。これからも砺波医療圏の皆様にとって、安心して頼れるクリニックになるようスタッフ一同努力してまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。

小矢部市綾子3978 TEL0766-68-2550

	受付時間	月	火	水	木	金	土
午前	8:30~13:00	○	○	○	-	○	○ 9:00~13:00
午後	15:00~18:30	○	○	○	-	○	-

(土曜午後、木、日曜、祝日は休診)



医療法人社団

吉岡整形外科

(整形外科、リハビリテーション科)

よしおか まさひと

副院長 吉岡 薫人 先生

日本整形外科学会
認定専門医



~CT、MRIを完備したクリニックです~

当院は、南砺市立福野小学校やショッピングセンター ア・ミューに隣接したクリニックです。開業30年を迎えた2022年7月より医師2名体制となり、以前よりも患者様の待ち時間が短くなったとの声を頂いております。クリニックでは珍しくレントゲン、CT、MRIを完備しており、正確に診断し、安心して治療を受けて頂くことを重視しております。最近クリニックのホームページを一新し、超音波診断装置（エコー）を使った診療や、体外衝撃波治療という新しい治療にも注力しています。

また、従来より日帰り手術だけでなく各種入院手術も行っており、理学療法士も2名在籍しておりますので、リハビリにも対応可能です。必要な際には砺波総合病院など高次医療機関へのご紹介もさせて頂いておりますので、今後もお気軽に受診やご紹介を頂けましたら幸甚に存じます。

南砺市寺家新屋敷472-7 TEL 0763-22-7700

	受付時間	月	火	水	木	金	土
午前	9:00~13:00	○	○	○	○	○	○
午後	16:00~18:30	○	-	○	-	○	-

(火・木・土曜午後、日曜、祝日は休診)

1.5T(テスラ)MRI装置 更新のお知らせ

放射線技術科



当院の画像診断装置は、最新の技術と機能を搭載したCT装置をはじめ、MRI装置では砺波地区唯一の3.0T(テスラ)装置が稼働し、患者さんの画像診断に寄与しています。今回、1.5T(テスラ)MRI装置が更新されましたのでご紹介します。

今回の更新では、既存装置のマグネットを再利用することで、工期を短縮し、検査停止期間を短くすることが出来ました。また、更新コストを抑えることが出来ました。

マグネットを再利用する新しい形での更新ではありますが、マグネット以外の部品は交換され、最新のソフトウェアに

アップグレードされましたので、最新の装置として更新を行いました。

最新のソフトウェアの特徴が、AIの機械学習の方法の1つであるディープラーニングテクノロジーを用いた画像再構成技術です。この再構成法により、今までと同じスキャン時間でも、**①ノイズの少ない画像 ②高い分解能の画像 ③アーチファクトの少ない画像**を取得することが可能になり、飛躍的に画質の向上を実現することが出来ました。

今後も、市立砺波総合病院放射線技術科は、患者さんに優良・有益な画像を提供していきたいと思っております。



再利用した既存装置のマグネット



GE 社製 SIGNA Explorer
(2023年12月より稼働)

新任医師紹介

- ① 医師経験年数を教えてください(R5.10.1現在)
- ② 趣味・特技・マイブームは何ですか？
- ③ 自己PRなど何でもどうぞ！



脳神経外科

つかだ つよし
部長 塚田 剛史

- ①17年目 ②キャンプ、焚き火
- ③地域の医療に貢献できるよう頑張ります。



整形外科

なかむら ゆうた
医員 中村 勇太

- ①8年目 ②スポーツ観戦
- ③整形外科医としてお役に立てるよう、精一杯頑張りますので宜しくお願いします。

編集後記

雪もなく今年は暖かいお正月を迎えました。我が家は毎年1月1日の朝、初詣に出かけます。旧年の感謝を伝え、迎えた新年が良い年になるように今年も家族でお参りをしてきました。しかしその日の午後4時過ぎ、今までに経験したことのない大きな地震を体験し、揺れがおさまるまで娘とテーブルの下で過ごしました。何とも言えない恐怖感と不安でいっぱいになり、余震の度に地震の怖さを思い知らされました。いつ起こるかかわからないからこそ備えが大切であることを実感しました。被災に遭われた方々に早く笑顔が戻るように私たちができる支援を続けていきたいです。(U. M)

「おあしす連携だより」に関するお問い合わせは、患者総合支援センターまでご連絡ください。

TEL 0763-32-8361 FAX 0763-33-1591 メール tgh-renkei@med.tonami.toyama.jp